

## 第 57 回全国学童保育研究集会（20221029~20221030）レポート

【クラブ】（あそびばクラブ）

【名 前】（島田歩実）

### ①2 日目に参加した分科会のタイトルをお書きください。

#### 第（2-①）分科会 （子ども理解の視点と安心できる関係づくり）

※全体会のみに参加の場合は、全体会の記念講演のタイトルをお書きください。

### ②この分科会を選んだ理由をお書きください。

日々の保育の中で子どもたちと過ごさせて頂く中で、「この子のこともっと分かりたいな」「何を思っているんだろう」と感じる事がたくさんです。当たり前ですが、毎日同じなわけではなくて、その日によって、その場面によって、子どもたちひとりひとり様子も表情もコロコロと変わっていきます。そんな子どもたちのことを少しでも理解するために学びたいなと思ったからです。

そして自分も小学生時代に感じたであろう様々な気持ちを少しでも、子どもたちの目線に立ち分かってあげられる存在でいたいなと思ったからです。

そして何より、子どもたちにとって学童という場所が“安心できる帰ってくる場所”であり、私たち指導員が“安心できる存在”であり続けられるようにしていきたいと思ったからです。

そのためにひとつでも多くの引き出しを学ばせて頂きたいと思い、選びました。

### ③2 日間の全体会と分科会で心にのこったことや気づいたことや学んだこと、今後の実践に活かしていきたいことなど、感想もふくめてお書きください（自由記述）。

全体会のお話では、基調報告でも特別報告でも記念講演においても、“つながる”というお言葉が何度も出てきたということが印象的でした。このコロナ禍の中で、人と人がつながる機会って減ってしまっていると感じます。今回の全国研も直接お会いしてつながることはできないけれど、でもこうやってやり方を探せば zoom という方法で全国の指導員さんにつながることができました。コロナということを経験し、大勢の人が集まるような行事やイベント等、子どもたちの楽しみがどんどん失われてしまっていたこの数年間だったと思います。そんな中でも、つながりって、私たち指導員の工夫次第でいろいろな形で実現できるのだということを改めて感じました。

特別報告の中でお話して下さった方の、“子どもたちの成長の瞬間に立ち会うことができたことが 30 年以上指導員として働き続けることができた 1 番の支えである”というお言葉がとても心に残っています。子どもたちと過ごす中で、もー！なんでだよ～！！と腹がたってしまうこともたくさんあるけれど、でも、それ以上に、子どもたちひとりひとりの行動や言葉から成長を感じて泣けそうになってしまうくらい嬉しくなってしまうこともたくさんあります。そして不思議なことにそのような姿には、なんでだよ～って思っていたことなんて忘れてしまうくらいの威力があります。子どもってすごいなあと日々思います。

安田さんの記念講演は、普段なかなかきくことのできないお話ばかりでとても聞き入ってしまいました。その中でも特に心に残っているお言葉として「子どもの表情を見れば、どんな社会かが分かる。社

会のゆがみは子どもたちに向かっていく」というお言葉です。本当にその通りだと感じました。学童でも同じことが言えると思いました。子どもたちは毎日どんな表情をしているかな…？とあそびばの子どもたちの顔を思い浮かべました。側にいる私たち指導員の様子や接し方が子どもたちの日々の表情や様子に大きく関係していくのだと実感しました。気持ちや様子って伝染していくと思うし、子どもたちはとっても敏感に私たち指導員の様子を感じとっているとも思いました。まずは働きやすい雰囲気や環境づくりに努め、指導員同士が楽しく笑顔でいられる現場にしていきたいなと感じました。

もうひとつ、「カンボジアで、紛争が続き、教育の機会をごっそり奪われてしまっているお父さんお母さんたちを狙って、子どもたちを買いに来る」というお言葉がとても衝撃的でした。同時に、教育って、算数や国語のような知識を学ぶことももちろん子どもたちにとって大切だけど、それだけではないと感じました。これから大きくなって生きていく子どもたちが困らないように“人として生きていく上で大切なこと”を伝え続けていくことの使命を感じました。毎日、根気強く伝え続けていきたいなと感じました。

最後に、爆撃により足を負傷してしまった女の子が「私たち何にも悪いことしてないよね。おおきいひとたちに伝えてほしい」と言っていたというそのお言葉がすごくすごく心に残っています。本当にその通りだと感じました。おおきいひとたち＝“大人”に対して、きっと不信感を抱いてしまうであろうとも感じました。世の中には怖い大人ばかりではないんだよ、ということがいつか届くといいなと感じました。また、“恩おくり”という素敵なお言葉も出てきたように、ひとりではなくて、必ず誰かがおもってくれていて、助けてくれる人もたくさんいるんだよということを子どもたちに伝えていきたいなと感じます。そしてそれは決して当たり前のことではなくて、“ありがとう”と感謝の気持ちを忘れてはいけないことも伝え続けていきたいなと感じました。

分科会も、非常に自分にとって実りのある時間となりました。全国、様々な皆さんのお悩みや解決方法や大事にされている思いをたくさん交流しお聞きすることができてとっても嬉しかったです。特に心に残っているお言葉として、「自分自身(指導員)に余裕がないと、安心して子どもも過ごすことができない」「時間と関わり方はかけ算である。このかけ算が子どもとの安心できる関係性につながっていくのだよ。時間だけ過ごしても足りないし、その逆もだよ」と仰っていて、本当にその通りだなと感じました。日々いろいろなことが起こる中で、やっぱり自分自身がどっしりと構えていられるだけの余裕＝引き出しがないと、子どもたちは不安になってしまうと感じました。だからやっぱり自己研鑽が大切で、日々勉強し続けることを大切にしていこうと改めて感じることができました。

子どもたちとの関係性ってすぐにはやっぱり築くことはできないし、時に心が折れてしまいそうになってしまうこともあるけれど、でも、この“時間と関わり方はかけ算”というお言葉は、“たっぷり時間をかけて、そして愛情をもってひとりひとりの子どもたちと毎日濃い時間を過ごして子どもたちを見守って行ってね”というようなメッセージのような、これからも頑張っていこうと思うことのできるパワーを頂きました。様々なことを学ばせて頂き、感じる事ができた全国研になりました。これからも引き続き、自分にできることを一生懸命頑張っていこうと思いました。

※提出されたレポートは、当会の広報誌やホームページに掲載する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

※×切は、11月13日(日)です。常勤・専任指導員に手渡し、または FAX：0564-32-0325 までお送りください。